

草の芽句会たより

NO,100
28,12,13

紅葉する門前町抜け句座に着く
冬ぬくし孫と草とる狭庭かな
八ツ手咲く庭に一人のわび住居
芳子 節子

白侘助のこぼれ三基の句碑ありき
お薬師の五鈷杵なでなで師走かな
三々五々静かな札所冬の雨
貞子 範子

暮の寺薬師如来のお身ぬぐい
冬山に抱かれ雨の稚児大師
範子

隣家の空家となりし年のくれ
懐手して温かきお人柄
文子

野ざらしの五百羅漢に冬の雨
雨の中お大師堂の年用意
禮子

五岳山色を重ねて冬に入る
礼深く仁王門出ず冬遍路
純子

日の匂ひまといて菊の枯れにけり
境内に一札をして冬遍路
剋子

気のはれぬまゝに歩くや草紅葉
雨はれて狭庭はなやぐ紅葉かな
貞

出席者 小林 大黒 氏家 馬場 吉崎 川原 森 小山 真鍋 (投句)

納句会は記念すべき100回目となった。平成二〇年に復活した草の芽、毎月の城山通いも100回を数えたことになる。三年前には頑張つて句集を発刊、その達成感と刷り上がった句集の立派さ？に感慨無量となり皆で大喜びをしたものである。足腰が痛い日もあるが月に一度顔を合わせ、お喋りをしながらの句会が元気をくれた気もする。黙々と事務局の仕事を引き受けてくれる担当者には感謝あるのみ。今日の吟行は総本山善通寺、雨もよいの境内をお遍路さんが足早に行き交う。折しも総本山では師走の行事「お薬師さまのお身ぬぐい」の日。香煙がいくすじも上り読経が境内に流れている。私達も心機一転「心のお身ぬぐい」をしたい。そして新しい年も元気に生きていこう。春には若葉の祖弥谷寺への吟行を・・の声も。期待したい。

